

**連載****社会教育施設について考える(WG報告)****～番外編：色んな施設の状況紹介～**

福澄孝博（北大院・工／生涯学習施設支援 WG 代表）、生涯学習施設支援 WG

**1. はじめに**

前々号（『天文教育』2017年1月号）の齋藤による記事（第3回）の発表に先立ち、会員の方から ML 上で「施設の置かれる状況を問題理解の背景として知りたい」とのご趣旨の質問があった[1]。これまでも参考文献として第29回天文教育研究会の集録（福澄による招待講演）[2]を挙げてきたところではあるが、集録を直ぐには読めない方のためにも、本連載記事内でも改めて扱った方が良く思い至った。

そこで、今回は「番外編」と銘打って、上記集録原稿で取り上げた内容を、今後の記事の参考資料にもなるように概観する。なお、本記事ではあくまで概要のみを示すに留めるので、個別情報については最新の情報への改訂も含め、これからも連載記事を楽しみにしていただきたい。例えば、本年3月号では既に加藤さんによる「大阪市立科学館」の記事[3]を紹介し、また、本号では野田さんに「名古屋市科学館」について寄稿していただいたところである。

**2. 施設のおかれた状況の分類**

現在運営されている施設には①巧く運営されているもの②存続の危機にあるものがあるのは勿論、その他に③巧く運営されているようだが実は不十分という施設もある。このうち、①と③を紹介する。

**2.1 巧く運営されている施設に見られるポイント**

標記につき、当該招待講演では各施設に以下のような特徴が見られると指摘した。即ち、

○長期計画を立て設置者に財政面の見通しを示し、担当者も日頃のメンテナンスを欠かさない施設、○途切れなく学芸員（正規職員）を補充し、また、市民をお客さんではなく一緒に館を作る仲間だ（市民参画）と捉える施設、○旧施設から新館への継承の中で様々なバージョンアップを勝ち取った（背景に、地元企業の寄付[施設]／労働組合[力があつた]による職制の検討と市の受け入れ／バブル経済下で最新設備導入が是とされた、など有り）施設、○施設が地域のシンボルに位置づけられ、それを核に市民が地域を盛り上げようとし、また、マスコミとの協力の効果が認められる施設、○施設の重要さを役所／学校関係者／市民が共有、市民教育の拠点を民間に任せるなどありえないとの認識、市民参画、予算や職員は削られる中で“工夫して続ける”に解を見出した施設、などだ。

**2.2 一般に認識されている状況と実態が乖離（かいり）している事案**

一方で、外部（一般市民）からはよく運営されているように感じられても、運営者・専門家などからは問題点が指摘される施設もある。招待講演では以下の事例を紹介した。○専門家の不在により設備を活かしきれていない施設（たちが悪いことには、専門性の無さゆえに、設置者も運営者も「自分らは良くやっている」と信じ込み悪意が無い）、○住民の意向と TOP の考えに齟齬が生じている施設（財源が確保できても、設置者の考え方によっては利用者には受け入れがたい施設となる危険性）。

他にも、必ずしも実態が評価と相容れない、

とまでは言わないが、評価の軸により判断結果が異なってくることもある。このことも「施設の評価」を難しくする要因として意識されねばならない。例えば、それが利用者や設置者と施設の現場との意識の違いに繋がることもありうるからだ。

### 3. 施設存続の危機（先の②）の要因

さらに、施設存続危機の要因となり得るものも分析した。○「雨後の筍」のように施設が増加して四半世紀、そろそろ耐用年数が過ぎてきている、○耐震工事の必要に迫られ、それならいっそ廃止に、○財政困難により、縮小・削減（他事業の優先）、○TOPの交代で『方針』の転換・変化、などを講演で取り上げた。また、ここでは合わせて、2.2で少し触れた「専門職員（正規職員）」の少なさに関連し、もし施設に存亡に影響する問題が生じて、内部から声を挙げられるとは限らないことを指摘したい。最近は特に、嘱託職員で賄われている施設が多い。その立場の弱さからものを言えなかったり、運動の前に先ず自分の保身（次職の確保）だったり、が正直なところだろう。

施設の存続を語る際には、全般的に財政は各種補助金などなんとでもなるのに対し「設置理念」が非常に重要ということが考えられた。もちろん、今後さらに調査研究を詰めていく上で、新たな、別の要因も見つけていけるかもしれない。しかし、ここで今一度、それぞれの地域の施設の設立経緯を地域住民の立場であっても、また職員であるならなおさら、確認しておくことを 強く 呼び掛けたい。

### 4. おわりに

今後の連載記事、あるいは、これまでの4回分を振り返っていただく際の参考になれば、と、第29回天文教育研究会の集録と重複してしまう内容が多いものの、施設の置かれる

状況を纏めてみた。短い文章ではあるが、皆さんが連載記事を読む時に、手許に置いていただくと幸いである。

今後は、運営が巧くいっている（と思われる）施設の具体例も、独自インタビューや関係者からの寄稿文などを通して、分析・紹介していきたいと考えている。その過程では施設を正常、かつ、巧く運営していくためのコツや、逆に施設の運営を阻害しうる要因を更に明らかにできることだろう。また、それらをデータとして公開することで「今後の施設支援のために」活用していただける基礎資料を供給できると期待したい。

今後も記事をご愛読いただき、また、我われワーキンググループのメンバーにご助言・ご意見・ご情報を賜れるよう、お願い申し上げます。

### 文 献

- [1] [tenkyo:06927] Re: [tenkyo:06925] 生涯学習施設支援 WG より：天教誌1月号原稿につきまして
- [2] 福澄孝博(2015)「社会教育施設の現状分析とこれから ～我々には何ができるか～」, 第29回天文教育研究会集録, 43.
- [3] 加藤賢一ら(2017)「社会教育施設について考える(WG報告) 特別寄稿：大阪市立科学館の成立を巡って」, 天文教育, 第29巻第2号(2017年3月号), 23.